



こーひーぶれいく

お昼休みにサッカーグラウンドが待っている

河地 有木

Kawachi Naoki

ものごとがうまく進められず、もやもやとした午前中の終わりを告げるチャイムが聞こえ、書きかけの文章に区切りを付けることに数分逡巡した後、パソコンをスリープモードに切り替えて席を立ちます。ロッカーで運動ができる格好に着替え、スパイクを両手に持ち、引きずるような重い足取りで居室の建屋から出て、外の新鮮な空気を吸い込むと下を向いていた顔が前を向き、アスファルトの上を歩く足取りが徐々に軽くなって小走りになる自分に気が付きます。真っ青な空と白い雲、それに緑色一面の芝生のグラウンドが目に入ると、モヤがかかっていた頭の中がスッキリ晴れ渡り、いろんなストレスから解放されて心が軽やかに体も元気になる、そんな気持ちのよい瞬間を感じることができます。

量子科学技術研究開発機構の高崎量子応用研究所には、正門から入ってすぐ左手側に、所内の避難所にもなっている天然芝のサッカーグラウンドがあります。サッカー部員全員で、年間を通して芝刈りや雑草抜き等の手入れを隅々まで行い、素晴らしいコンディションを保っている自慢のグラウンドです。春には芽吹き土の香りを感じながら、雑草、特にタンポポとの戦いが始まります。初夏には深い緑色一面のグラウンドになり、どんどんと伸びる芝生の草丈を酷暑の中で管理するのはとても大変ですが、無心で植物に向き合うのはとても心地よいものです。草丈約3cmに刈りそろえられた青々とした芝のグラウンドは夕日に映えてうっとりします。

私は今でこそ植物を対象とした研究を展開していますが、元々は物理学の出身で土いじり等は全くの未経験でした。しかし、このグラウンドのグラウンダーキーパーを自認し、イネ科植物である芝の生育を

管理することで植物研究をまさに実践していると言えます。なぜ、学会で窒素・リン酸・カリウムの施肥や元素動態が研究対象となっているのか、光合成に最適な生育環境はどのような状態なのか、身にしみて感じるようになりました。

お昼休みのサッカー、懸命にボールを追いかける時間は、とても素敵です。シュートが決まった！はずれた！パスがうまくいった！止められた！成功した！やられた！サッカーにはたくさんの喜怒哀楽が詰め込まれており、最後にはみんなが笑顔になれます。大袈裟かもしれませんがサッカーに、ボールと一緒に蹴る仲間に救われていると思えることは幾度もありました。暗い気持ちや辛いこと、すべてがリセットされ、そして、午後に向けてもう一度スイッチを入れ直して、研究に、業務に取り組むことができるようになります。

サッカーの魅力について、この紙面だけで語り尽くすことはできません。一緒にボールを蹴りましょう。高崎研に来所の際には、お昼休みに運動ができる格好で是非グラウンドにお立寄りください。美しい緑のサッカーグラウンドで、みなさまをお待ちしております。



高崎研サッカー部の仲間たちとサッカーグラウンド
前列左から2番目が筆者

(量子科学技術研究開発機構 高崎量子応用研究所)